

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成30年(2018年)

8-9月号

(通巻 177号)

2018年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ハグロトンボ

黒い翅と、光沢グリーンの体。おしゃ
れな配色に自然界の奥深さを感じます。
お歯黒にちなむ名前と言われています。

P1 ☀️ いきもの写真館
ハグロトンボ

P2 ☀️ 気にしておきたい市川の自然
/ えび・かに
3

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
シジユウカラのヒナ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
北方町・ツバメに必要なもの

☀️ くすのきのあるバス通りから
猛暑の夏の日々

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
二枚貝の殻とトサカギンポ

P7 ☀️ わたしの観察ノート
5月～6月の記録

P8 ☀️ 行事案内

気にしておきたい市川の自然

えび・かに

市川市は江戸川と東京湾に接するため、生物目録を調べてみると意外に多くのえび・かにの名前があります。羅列された名前の中には安定して生息する種類がある一方、脆弱な生息条件でかろうじて生き延びている種類も含まれます。

市内では絶滅の危機・ヌカエビ

大町公園の自然観察園（長田谷津）に生息するヌカエビは、体長3cmほどの小さなエビです。淡水性で、透明な体の特徴です。かつては身近なため池などに普通に生息していたと思われませんが、水質の悪化や天敵の増加、そもそもため池が無くなってしまったこともあり、生息地は限られたものになりました。市川市内では長田谷津が唯一の生息地であり、長田谷津の中でも見られる場所は限定的です。

一方、ヌカエビによく似たエビに、カワリヌマエビ類がいます。こちらはペット由来あるいは国内移入種、外来種で、何種類かを総称して扱っています。長田谷津ではある時から見られるようになり、当初、博物館でも想定外であったので、ヌカエビと混同して扱ってしまいました。博物館だよりの平成15年度12-1月号で取り上げたヌカエビに関する記事は、じつはカワリヌマエビ類の飼育観察に基づいたものでした。この場を借りて訂正します。

現在はヌカエビとカワリヌマエビ類を並べて展示していますが、驚くのはカワリヌマエビ類の繁殖速度です。どんどん繁殖して子エビが増えていきます。仮にヌカエビの生息地にカワリヌマエビ類が放流されれば、やがて個体数は逆転しヌカエビは姿を消してしまうかもしれません。現実的に長田谷津ではそうなる危険があります。

孤立した環境で生き延びたサワガニ

サワガニもヌカエビと状況は似ています。かつて清水ガニと呼ばれ市内の谷津では普通に見られましたが、現在では環境が保全された長田谷津が、安定した生息地としては唯一の場所になりました。長さ1kmの小さな谷津は、水環境という点では、長いあいだ下流側から隔てられ孤立していました。長田谷津より下流は、水質悪化と都市型の河川形状であったので、もはや別の環境だったからです。孤立した環境の中で、サワガニは生き延びてきました。

海に向かって開放された長田谷津

最近、長田谷津でこれまで見なかったカニが増えています。モクズガニです。モクズガニは河口付近で産卵し、子ガニは川を遡上します。そのモクズガニ（特に子ガニ）が多く見られるようになりました。これらは、東京湾から真間川、大柏川を経て長田谷津へ至ったものと思われます。同様のルートで、ハゼのウキゴリ類も見られるようになりました。大柏川では、アユやウナギも確認されています。川をきれいにするさまざまな取り組みが功を奏し、真間川や大柏川は生き物が暮らし、移動できる川になったのです。

孤立していた長田谷津は東京湾と再びつながりをもつことができました。その象徴が、最近見られるようになったモクズガニというわけです。



ヌカエビ
長田谷津産の飼育展示個体



カワリヌマエビ類
長田谷津産の飼育展示個体



サワガニ
長田谷津産の飼育展示個体



モクズガニ
長田谷津産の飼育展示個体



シジュウカラのヒナ

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を
このコーナーでは紹介しています。

シジュウカラの巣立ちヒナが数羽
突然やってきて、定番のブロック塀に止まりました。

庭木が無いので

ウグイスやメジロ、シジュウカラなどの訪問は

めったにないのです。

いつもの縁側から、ゴーヤーのネット越しに見ていたら
警戒されずに、カメラに収めることができました。

緑のカーテンは

野鳥観察にも役立ってくれました。



街かど自然探訪

おじゃまします!

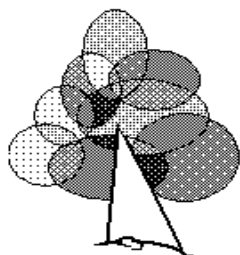
ぼっ け まち

北方町・ツバメに必要なもの

大柏川第一調節池緑地のビジターセンターのそと壁には、あちらこちらでツバメの巣がいくつもならんであります。目の前の緑地には、池と草原が広がっています。ここには、ツバメが巣を造るための泥と草、餌になるたくさんの虫、巣だったばかりの若鳥たちの休憩所になる葦原があります。ツバメの暮らしに必要なものが全てそろっている場所は、なかなかありません。



△ビジターセンター南面。矢印の所に巣があります。手前の巣には巣立ち間近のヒナ鳥がいました。ガラス窓には前面の風景が映り込んでいます。



くすのきのあるバス通りから No.119

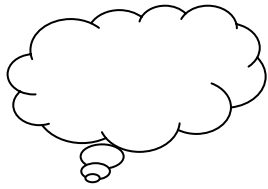
猛暑の夏の日々

日曜日の朝6時、自宅の庭でミンミンゼミが鳴き始めました。私は5時に猫に起こされていたのでかまいませんが、「休みの日だからゆっくり寝たい人には気の毒だな。でもクーラーを使い、窓を閉めていれば…いやミンミンゼミの声は強力だから」と思いました。「チベット高気圧と太平洋高気圧が重なり、くじらの尻尾の形の気圧配置は猛烈な暑さになります」との気象の解説を聞くと納得します。七月初めに群馬県から長野県の地層を見に出かけたとき、夕立でワイパーが役に立たない土砂降りにあいました。雨で災

害が起きるのがわかった気がしました。

先日洗濯物を取り込んで、1cmちょっとの虫を見つけました。青と緑に輝くハチのようです。「セイボウの仲間でしょう。自然博に問い合わせが来ますよ」とのこと。メタリックで、カワセミともタマムシとも違うスッキリした色合いです。寄生バチだとか…。今年はゴーヤではなく、キュウリを日よけにしました。ゴーヤの時は二階まで届きましたが、キュウリのつるは窓の半分しか伸びません。2日に1本収穫できるのでよいとしましょう。

(M. M.)



展示室

No.21

飼育生物の話題



二枚貝の殻と トサカギンポ

海の生き物の飼育展示は、漁師さんや生き物大好きな小学生など懇意にしている人たちに支えられています。6月に漁師さんからいただいたトサカギンポは、久しぶりの展示になりました。頭に「トサカ」がついた愛らしい表情が印象的で、学芸員にも人気です。

トサカギンポは、二枚貝の殻が大好きです。江戸川放水路では、カキ殻の中でよく見つかります。水槽ではホンビノスガイの殻に住みついでいて、いつも中に潜んで顔だけのぞかせています。人がのぞきこむと隠れるときもありますが、興味深そうに顔を出すこともあります。

いっしょにギンポの子どもも、もらいました。餌に淡水性の生きたミズムシを与えたらよく食べていたのですが、休館日に高温とエアの不具合が重なって死んでしまいました。トサカギンポも、ミズムシが大好物です。



わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・ミツバアケビの葉っぱについていた黒いイモムシはアケビコノハの幼虫でした(5/5)。図鑑に載っている写真どおりの威嚇のポーズを見せてくれました。
- ・キショウブが見ごろでした(5/16)。冬に掘り上げた水路の一部は、もうキショウブとクレソンに覆われてしまいました。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・婚姻色になり綺麗になったアオサギが飛来していました(5/6)。まるで別の鳥のようでした。
- ・大池でショウジョウトンボの雄がパトロールしていました(5/25)。鮮やかな赤色が目立っていました。
- ・クヌギにカブトムシのメスが2匹来ていました(6/9)。今シーズン初めての観察です。その他、コクワガタやスズメバチの仲間も樹液を吸っていました。

以上 稲村優一(自然博物館)

◆大野町4丁目より

- ・田植えが終わったふれあい農園の水田に、コチドリをつがいがありました(5/20)。草地や荒れ地が多い一帯なので、どこかで子育てしてくれそうです。

◆中山より

- ・アシタバの大きな葉っぱについていた小さな黒いイモムシはキアゲハでした(5/8)。これからあつという間に大きくなります。
- ・ムクドリがにぎやかに鳴いていました(6/15)。近づくると、ヤマモモの実がたわわに実っていました。

◆大柏川第一調節池緑地より

- ・草むらに、さわやかな黄色の花がありました(5/23)。あまり見慣れないので調べてみたらセイヨウヒキヨモギという植物でした。調節池は造成地なので、帰化植物が生えていてもおかしくありません。

◆じゅんさい池緑地より

- ・今シーズン初めて大町でニイニイゼミの声を聞いた同じ日、じゅん菜池緑地付近でも声が聞かれました(6/22)。

◆江戸川放水路より

- ・冷たい雨が降る日でしたが、干潟ではトビハゼの姿を確認することができました(6/15)。巣穴もありました。
- ・水辺に網を入れると、コノシロの子どもが捕れました(6/30)。体がキラキラして、きれいでした。

以上 金子謙一

◆江戸川より

- ・ヒヌマイトトンボを観察に行きました(6/23)。複数個体を確認できたので、うまく命を繋いでいるようです。
- ・行徳橋の上を歩いていると堰のコンクリートの壁に羽化途中のナゴヤサナエを見つけました(6/23)。

以上 稲村優一

暑い春がそのまま続き、真夏のような日も多くありました。6月6日に梅雨入りしましたが、雨がほとんど降らずに明けてしまいました。速報値では梅雨明けは6月29日ごろで、平年より20日以上早いそうです。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。

おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場所 自然観察園
- ・時間 午前10時～12時
- ・定員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

日にち	受付開始日
-----	-------

9月9日①	8月18日より
-------	---------

お申し込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「9月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 9月1日①、10月6日①、11月3日①、午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
-----	----	------

初秋の江戸川土手	9月16日①午前10時～11時30分	里見公園正門	午前10時
----------	--------------------	--------	-------

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいませんか。

(雨天中止)

- ・日時 9月30日①、10月28日①、(8月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いして下さいませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 9月2日①、10月7日①、11月4日①、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第30巻 第3号 (通巻第177号)

平成30年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shisetsu/haku/>